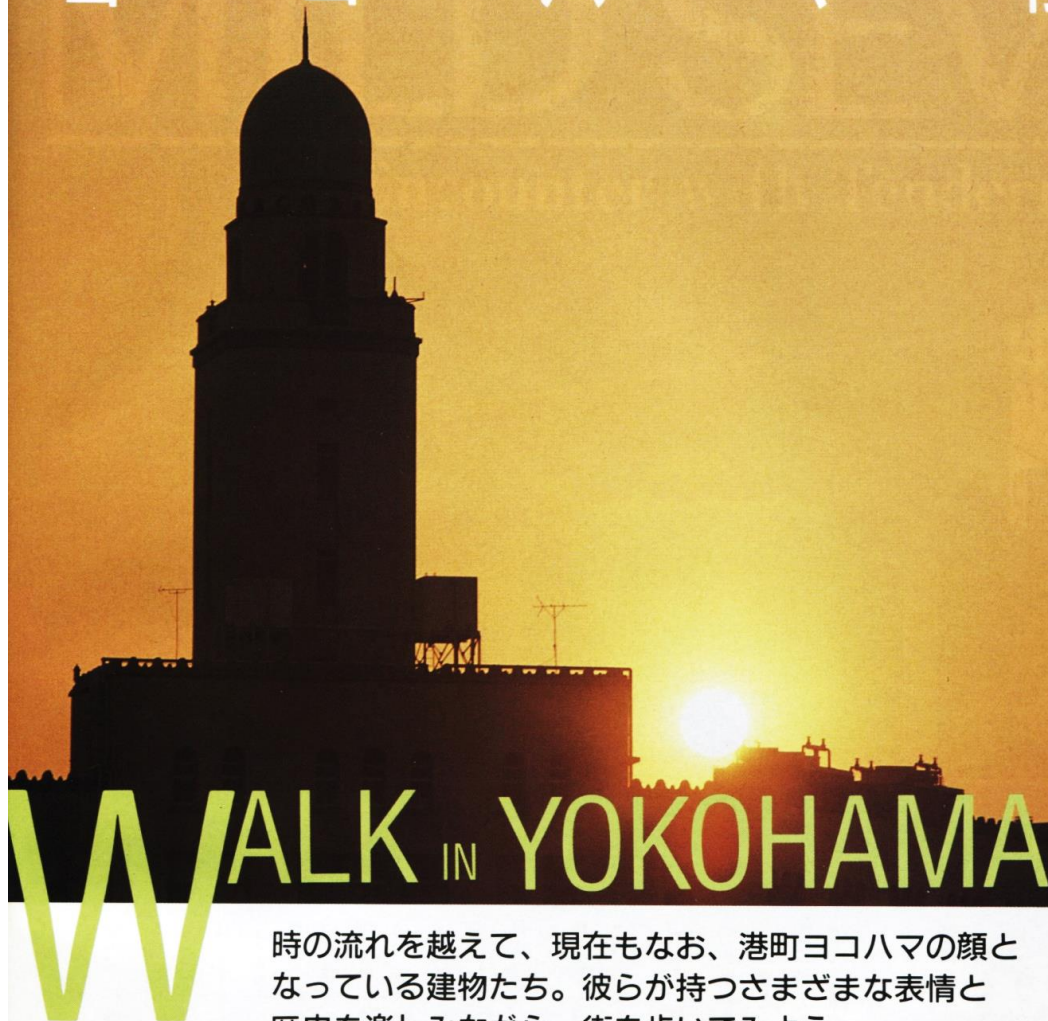


ヨコハマ散歩



文明開化の
音が聴こえる

建築
ウォッチング

時の流れを越えて、現在もなお、港町ヨコハマの顔となっている建物たち。彼らが持つさまざまな表情と歴史を楽しみながら、街を歩いてみよう。

日

日本で初めてガス灯がともった街、街路樹が植えられた街、アイスクリームが売られた街、などなど多くの「もののはじめ」がある横浜関内の馬車道通り。その一角に昨年変わった建物が出現した。

上は近代的なガラス張りの高層建築だが、低層部にはもともとそこにあった三階建の石造建築の外壁が復元されている。日本火災横浜ビル。隣には明治建築の代表作、重厚な石造の神奈川県立博物館（旧横浜正金銀行）がある。

横浜は二十年ほど前から歴史を生かした魅力のある街づくりを進めている。なかでも港町の歴史をもち、近代建築や洋館が残る関内や山手は横浜のシンボルゾーンだ。関東大震災と戦災による破壊を受けた街になお生き続け、街の表情に深みと趣を与える建物を訪ねながら、文明開化の香りと現代が息づく街ミナトマチ・ヨコハマを歩いてみよう。

馬車道をさらに港の方へ向かう。荒々しい石積外壁の富士銀行ビル。そのはず向かい、本町通りの交差点をはさんで半円形のコロネードをもつ横浜銀行。そして旧生糸検査所の横浜農林水産合同庁舎が並ぶ。この建物は横浜港の生糸貿易最盛期に建てられた堂々としたものだが、まもなく生まれ変わりの工事に入ることになっている。ここへ来ると歩道に埋め込まれ

た絵タイルとサインポールが案内してくれる。桜木町駅から山下公園を結ぶ都心ブロムナードだ。都心ブロムナードとは、ミナトマチ・ヨコハマが楽しめる散歩コースのことである。桜木町、関内、石川町の各駅から港に向かっての歩道に、絵タイルが五つおきに埋め込まれている。絵タイルを辿ってかつては海沿いであった海岸通りに入る。列柱の日本郵船ビルを通り過ぎると左手にクイーンの塔を持つ横浜税関、右手にキングの塔を持つ神奈川県庁の重厚な建物が見えてくる。県庁の手前で右側を望むとさらにジャックの塔の横浜市開港記念会館が見える。震災でなくなったドームを復元したばかりの立派な姿である。

今は高層ビルの間で目立たなくなっているが、かつて港に入る船から最初に見えたこの三つの建物は横浜の顔であった。その容姿から外国船の船員がトランプの名で呼んでこの名がついたといわれる。夜、大棧橋のデッキから振り返るとライトアップされた三本の塔が浮かび上がる。

県庁の先には大銀杏並木の日本大通りを挟んで横浜開港資料館がある。イギリス領事館であった建物と新しい建物の間にある玉桶の木は震災前からのもので、日米和親条約はこの木のもとで結ばれたという。資料館の隣の開港広場には条約締結の地を記念した碑が建



- ① 日本火災横浜ビル
② 神奈川県立博物館
③ 横浜農林水産合同庁舎
④ 日本郵船ビル
⑤ 神奈川県庁（キング）
⑥ 横浜市開港記念会館（ジャック）
⑦ 横浜海岸教会
⑧ 人形の家
⑨ 山手資料館
右ページ写真はクイーンと呼ばれる横浜税関

っている。シルクセンターや白い鐘塔をもった横浜海岸教会などに囲まれた魅力的な広場である。シルクセンターの脇を通過して石量の山下公園通りを行くと、大きな銀杏並木に沿ってゆったりと整った街並みが続いている。新しい建物の間に残るホテル・ニューグランドなど、風格のある歴史的建築物が落ち着きを感じさせてくれる。三角屋根のポストモダン建築・人形の家からボーリン橋を渡り、山下公園の新しい世界の広場に立つと氷川丸や大横橋が一望できる。反対側のフランス橋を渡ってさらに足をのばすとフランス山。パリの中央市場跡から持ってきたパルタールパビリオンが可愛らしいフランス山から山手の入り口である谷戸坂を登ると左手が港の見える丘公園である。イギリス館（元英国総領事公邸）、大佛次郎記念館、神奈川近代文学館が緑の中に

落ち着いたたたずまいを見せる。

山手本通りに沿って行くと、外人墓地の前に山手資料館、元町公園の前に山手聖公会教会堂、洋館の喫茶店などの古い建物が佇み閑内地区とはひと味ちがったエキゾチックな雰囲気が漂う。かつて外国人居留地として栄えたこの地は、震災によって一度壊滅した。そのため現在ある西洋館は長崎や神戸のものより時代的には新しいが、数多くまともに残っている地区としては全国的にも例がないといわれる。

再び、港の見える丘公園に戻る。横浜の新しいシンボル・ベイブリッジがライトアップされ薄暮の港にブルー色に浮かび上がった。頬にあたる潮風が心地よい。ブルーライトヨコハマ……。

文・西脇敏夫

横浜市都市計画局都市デザイン室

写真＝金澤篤宏